

耳鼻咽喉科領域の疾患に対する漢方薬の有用性について



内 菌 明 裕 先生

せんだい耳鼻咽喉科

1983年 鹿児島大学医学部 卒業、鹿児島大学大学院医学研究科 入学
1987年 医学博士号(耳鼻咽喉科学)取得、薩摩郡医師会立病院 耳鼻咽喉科
1989年 鹿児島大学病院 助手
1991年 国立南九州中央病院 耳鼻咽喉科 医員
1992年 県立北薩病院 耳鼻咽喉科 部長
1994年 国立療養所星塚敬愛園 医長/大学病院兼任講師、現在地にて開業 現在に至る

はじめに

耳鼻咽喉科領域でも各種疾患のガイドラインが作成され、標準的治療が示されているが、診療所の外来にはアレルギー性鼻炎や慢性副鼻腔炎、耳鳴、めまい、難聴、咽喉頭異常感症など、根治し得ると言える症例は多くないのが現状である。西洋医学的な治療で難渋する症例に、冷えや肝鬱など漢方医学的なアプローチが有用な症例が多いことから、冷えや肝鬱が関連し、漢方治療が有効であった症例を報告する。

症 例

【症例1】 53歳 女性

主 訴：くしゃみ発作、水様性鼻汁、鼻閉

現病歴：身長153cm、体重43kg、BMIは18.4。鼻粘膜はやや発赤し、水様性鼻汁は中等量認められる。鼻汁中好酸球(++)、アレルギーはHD(-)、スギ・

ヨモギ(+)であった。数年来鼻炎症状があり、気温の低下に伴い悪化する。冷房が苦手で、庭の草むしり程度で症状が悪化することから、前医にて抗ヒスタミン薬、抗ロイコトリエン薬、鼻噴霧用ステロイド薬が処方されていたが、症状の改善がみられずに当科を受診した。

図1 症例1の漢方医学的所見(53歳 女性)

望診

舌：湿潤、薄白苔
体格：小柄で痩せており
虚証



問診

冷房が苦手、冷えると悪化
夏でも靴下をはいている。

切診

脈：沈、腹証：腹力2/5

現 症：漢方医学的所見を図1に示す。

経 過：小青竜湯2包/分2と麻黄附子細辛湯2包/分2を合方し、お湯で服用させたところ、1週間後には水様性鼻汁は改善し、寒い朝にもくしゃみや鼻汁で悩まされる回数も減少し、庭の草むしりもできるようになった。

考 察：冷えの存在が疑われる虚証患者には、附子剤(麻黄附子細辛湯)の合方も有効と考えられた(図2)。

図2 症例1の経過(53歳 女性)

処方

小青竜湯エキス製剤 2包/分2
麻黄附子細辛湯エキス製剤 2包/分2
合方してお湯で服用。

治療経過

1週間後、水様性鼻汁は改善。
寒い朝にもくしゃみや鼻汁で悩まされる回数が減った。

Point!

冷えの存在が疑われる虚証患者は
麻黄附子細辛湯の合方が有効

【症例2】 37歳 女性

主 訴：水様性鼻汁、鼻閉、喘息

現病歴：身長162cm、体重54kg、BMIは20.5。耳に異常はない。鼻腔所見は、下鼻甲介がやや蒼白で、水様性鼻汁(++)が認められる。咽喉頭に異常はない。アレルギー性鼻炎と気管支喘息の治療中であったが、感冒後より症状が悪化し、副鼻腔炎を併発した。抗生剤や吸入ステロイド薬などで症状は改善したが、水様性鼻汁や咳の改善がみられず、当院を受診した。

現 症：漢方医学的所見を図3に示す。

経 過：裏寒虚証と判断し、頭痛もあったため、桂枝人参湯2包を従来から使用していた西洋薬(ロラタジン、モンテルカストナトリウム)と併用した。1週間後、咳・鼻汁もかなり改善し、その後約3週間の継続服用で廃薬となった。

考 察：西洋薬で治療困難な鼻汁、咳の場合は、冷えの内在を疑うことが必要であり、桂枝、附子剤、甘草＋乾姜が配合されている漢方製剤の併用が有用と思われる(図4)。

図3 症例2の漢方医学的所見(37歳 女性)

望診

舌：淡白紅、**胖大**、**歯圧痕(+)、薄白苔**

体格：**色白で痩せ型**

問診

足が冷えて眠れないことがあり、**お腹が冷えるとよく頭痛や下痢が起こる**。口渴(一)、痰：切れよい。

切診 腹証：腹力やや弱く、**心下部が触診上冷たい**。
脈証：沈弱



図4 症例2の経過(37歳 女性)

処方 桂枝人参湯エキス製剤 2包
ロラタジン (10) 1T
モンテルカスト (10) 1T } 分1、夕食後

治療経過 1週間後、咳も鼻汁もかなり改善。その後3週間ほど継続して廃薬。

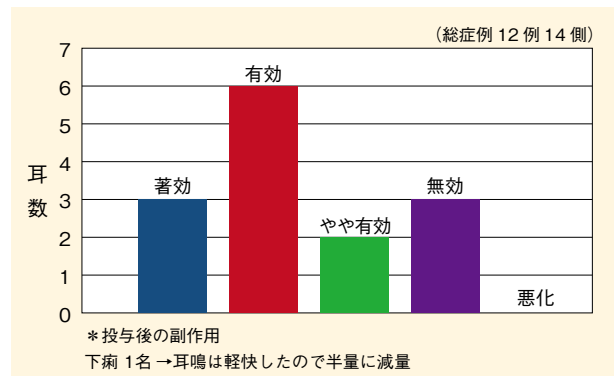
Point! 西洋薬で治療困難な鼻汁・咳の場合、**冷えの内在**を疑ってみる。

耳鳴に対する漢方治療

耳鳴症は、耳鼻咽喉科領域で難治性の疾患であり、中でも虚証で持続性の耳鳴は難治である。一方、実証で肝鬱を伴う症例では柴胡剤が適応となることが多く、柴胡加竜骨牡蛎湯が有用な場合がある。

そこで、実証・肝鬱傾向の耳鳴患者に対する柴胡加竜骨牡蛎湯の有用性を検討した。実証傾向の中高年の耳鳴患者で不眠、いらいら、高血圧、便秘などの訴えを有する12例を対象に柴胡加竜骨牡蛎湯を投与したところ、良好な結果が得られた。以上の結果から、実証・肝鬱傾向の耳鳴患者には柴胡加竜骨牡蛎湯が有効であることが確認された(図5)。

図5 耳鳴に対する柴胡加竜骨牡蛎湯の治療成績



Comments

後山：鼻炎症状と冷えとの関係をどのように考えればよいでしょうか。

内菌：通年性アレルギー性鼻炎の患者さんは、気温の低下などの物理的な刺激が症状発現の誘因となることがあります。このような症例には冷えが内在していると考えられます。

後山：峯先生、冷えの場所によって、どのように漢方の病態を考えればよいでしょうか。

峯：たとえば、外からの冷えがあり手足やお腹が冷えるならば当帰四逆加呉茱萸生姜湯、冷えが中に入り、上方の胃部の冷えには人参湯、下方の腎や膀胱の冷えには八味地黄湯を選択します。このように、冷えの場所や種類によって処方を考える必要があります。